

広報

さなだまち

NO.389

2006 1

プリンおいしいよ！

12月9日、そえひ保育園では、12月の誕生会が行われました。誕生月の子どもが、エコレンジャーになって、紙を大切にしよう！と呼びかけました。そして、誕生会のおやつは、プリン。みんなで食べるプリンは、とてもおいしかったです。

特集

時代と広報を 振り返る

昭和46年の創刊以来、34年に渡り、発行されてきた広報さなだまち。その時の町の出来事や、町民の姿を映してきた。様々な町の課題を伝え、町民とともに考え、多くの町民がその紙面に登った。そしてこの3月、町の合併により、その歴史に幕をおろす。今月は、創刊から現在まで歴代担当者が、当時の時代と、広報紙を振り返る。そして、フラインダー越しに見た町の姿と、広報紙への思いを語る。



うつみ かつとし／住民と行政の中間の視点で編集にあたった。

内海勝利（創刊号〜20号担当）
その時々の記事が、歴史、あるいは記録そのものに…

昭和46年12月号〜
49年9月号

私が担当した当時、自治行政の中で、「広報・広聴」は新しい分野でした。「開かれた行政」が新しい潮流として住民から求められている時代ではなかったかと思っています。町の広報紙が発行されるまで、公民館報が発行され、タブロイド版の館報は、民間から編集委員が参画する時期もありましたから、行政広報というより、むしろ住民と行政の中間に位置して編集されるよう



右端が広報さなだまちの創刊号。当時は、広報のサイズも今とは違った。

な記事内容であったと思います。私自身も、そんな視点で編集に当たった記憶があります。編集を重ねるうちに、今月号は何人の町民に紙面に登場してもらったか数えたりすることもありました。私に文章の才があつたかといえは、とにかく苦しんで書いただけという印象があります。苦肉の策として、写真と見出しスペースをまず決めて、その範囲で記事にまかめると、要領よく書けた記憶があります。それと、各号の表紙の写真と記事が決まり、メインとなる記事が何とかがまると山を越えた安堵感からか、その外の編集も何とかなったような気がします。改めて、自分が担当した紙面を見ると、その時々には記事が、歴史、あるいは記録そのものになって、町民の生活、行政の姿を伝えるものになっていることに気が付きます。昭和45年6月から、電車廃止反対運動が始まり、やむなく廃止とバス運行が決まり、昭和47年2月には、さよなら電車が走りました。その廃止された電車軌道跡地を買収し、国道144号線バイパス建設が新しい局面を迎えた

のが、昭和49年1月でした。その後の広報紙がすばらしい編集を続け、私自身手元に届くのを楽しみにしていました。合併後も真田地区のコミニティ紙として存続するよう願っています。

昭和49年10月号〜
52年3月号

私が担当し始めた昭和49年から50年当時は、国道144号線のバイパス工事が上部の横沢から着工されたころです。

左端の広報は、ダボス町と姉妹提携したことを伝える昭和51年4月号。



協働の地域づくりのためにも、
広報の役割は重要に…

渡辺正和（21号〜48号担当）



わたなべ まさかず／広報紙面は、読むから、見るへ大きく変化しているという。

まだ用地買収も行われていて、現在のバイパスはありませんでした。また、このバイパスにつなぐ役場前の新しい四日市橋を架ける工事も進められていました。

広報の話をしめすと、当時の印刷は活版印刷が主流で、原稿を書きあげ印刷所に持ち込むと、職人さんが原稿を見ながら、文選箱という小箱に活字を活字棚から、一字一字拾い、版を組んでいました。ですから、1ページのゲラ刷りまでできあがり、校正になるまでには今より時間がかかったので、印刷所に原稿を持ち込むのも発行日の10日前でした。メールで文字を送り、パソコンですぐ紙面ができる現在とは、大きな違いです。また出来上がった紙面も、今の印刷物と比べると硬く感じられます。ページ数も当時は8ページ位が基本であり限界でした。

行政広報紙は時代とともに文字情報中心から、今では紙面づくりもパソコンを駆使して、自由自在に紙面づくりができ、写真、グラフ、イラストなどのビジュアル要素を容易に多く取り入れることができ、更にカラー化は当たり前

で、読むから見る紙面へと印刷技術の進展と歴代担当者の努力によって大きく変化を遂げ、大変見やすい広報紙になっています。

これからの広報紙は、今まで以上に住民と行政とを結ぶ「地方自治のパイプ役」として、行政の課題や問題等を住民に提起し、共に考え行動する協働の地域づくりのためにも、その果たす役割はますます重要になってくると思います。今まで以上に地域に密着し、より親しまれる広報紙づくりを期待しています。

昭和52年4月号 55年3月号

私が広報を担当したのは、今から28年前の昭和52年4月から3カ年でした。

今回閉町に伴い、広報を振り返る特集を計画したので、何か書いてほしいということで、当時の広報を開き、私も当時の27歳にタイムスリップしてみました。

52年5月には、九度山町と姉妹町の調印が行われました。また、8月には菅平特定環境公共下水道の建設工事が、総

した。

昭和55年4月号 59年4月号

おもしろい 押森弘文さん

(82号～1200号担当)

昭和55年から4年間広報を担当した押森弘文さんは、すでに、故人となられていますので、現担当が、押森さんの担当した広報から振り返ります。また、昭和63年発行の広報縮刷版に担当時代を振り返る押森さんの後書きが、ありますので、紹介します。

押森さんの担当した4年間は、災害の多い時期でした。昭和56年8月に台風15号、57年6月には、降ひょうと集中豪雨、同じく57年8月に台風10号、9月に18号。そして、58年9月に台風10号と、3年連続の災害が町を襲っています。また、昭和58年4月には、山村広場運動公園が完成。同じく58年11月には、11年の歳月をかけた国道144号線真田バイパスが完成し、同年に真田氏記念公園も完成しまし



左端の昭和58年12月号は、真田バイパス開通で、あいさつする当時の吉村知事。

報を担当して得たもの。それは、各種の事業や催しものを支えているのは、決して一人や二人の表面に出る人間ではなく、名も無い大勢の人達だということ。いろいろの人達が協力しあい、お互いに共同生活を営んでいるからこそ、わたしたちも、また町の行政も成り立っていることを感じさせられた4年間でした。

次は広報縮刷版の押森さんの後書きから一部紹介します。『深夜、原稿に向かう。さほど筆は動かず、眠気が最良の友に。ついとグラスに手を伸ばし、安物のウイスキーなどを傾ける。不思議と目が覚める。しかし、依然として原稿は元のまま。』まあいいや、どうせ読んでくれる人は少ないのだから、何でもいいからマス目だけを埋めよう』と思いきかせて再びグラスを傾ける。今度は白河夜船の夢の中。(中略) 広報

昭和59年5月号 63年4月号

「腕章付けて、カメラ持ってれば、どんな場所でもどんな人前に出ていいぞ。」そんな上司の言葉を背に取材に飛び出した昭和59年4月、私の広報マン生活がスタートしました。20歳代半ばの4年間担当させていただきました。

わかりやすい文章、見やすいレイアウト、そして町民の皆様さんが登場し、町政に対する声をどんどん掲載して…。先輩や同僚の励ましやアドバイスにもかかわらず、思うような広報が作れず、自問自答



小林徳雄 (49号～81号担当)

昔若かった女性の 入浴写真を、表紙に…

工事費16億5千万円で着工しています。また、この年に長野県では初めての、「地域づくり委員会」に職員による地域担当制度が始まりました。

53年10月には、町発足20周年を記念して、「真田町音頭」が制作されました。歌手は西川峰子で作曲は岡千秋でした。54年11月には、中部電力の送電線計画が条件付きで仮測量が認められています。55年の2月には、事業費9千万円で老人福祉センターがオープンしています。このとき、昔若かった女性の入浴写真(第

左端の広報が、昔若かった女性の入浴写真を表紙にした80号。歴代唯一の試みだった。



こばやし のりお／当時の宮島町長は、当時からリサイクルを貫く人だったという。

80号)を、表紙に使わせたいただきましたが、この様な写真は広報では、最初で最後だったと思います。当時、写真をお願いすると快く承諾していただいた事を覚えています。さて、当時の町長は、宮島町長でしたが、広報の年始のあいさつ文をお願いすると、毎回広告の裏に書いていた。いてあり、物の大切さを痛感させられました。当時からリサイクルを貫いた人でもありました。

今回の取り組みにあたり、一時ではありましたが、あのころに思いを馳せる事が出来ました。ありがとうございます。

特集

時代と広報を 振り返る



こみやま はると／編集後記のコーナー（現在の季節の中で）を始めた。

町民皆さんの声が、 大きな励みに…

の毎日だったように思います。

それでも町民の皆さんから「あの記事よかったね」と声をかけていただいたり、また苦言、提言をいただいたりすることが、大いに励みになったことを覚えています。広報を少しでも身近に感じていただきたいとの願いと、自身身を振り返る場としかかったことから、それまでなかった編集後記を始めました。(実は生の声が出るこのコーナーは、編集者泣かせで、後任者にずいぶん恨まれましたが)今、自分の作った4年間の

右から2番目は、第1回目の真田まつりを伝えた昭和60年9月号。



ページをめくってみて、あの時代を振り返ってみました。昭和60年、NHK「真田太平記」放映をきっかけに開催された第1回さなだまつり。運動公園グラウンドが人波であふればかりとなったその興奮がよみがえります。

また、文化会館や林業会館など公共施設の整備が進み、町初の下水道、菅平下水道が完成した時代でもありました。

また、人間らしい生活を求めた時代、そして健康、福祉、環境などに関心が高まってきた時代だったかと思えます。

私の文章と写真が、町の記録の一部となっていることに時代の流れと、ほんのわずかな自己満足を感じています。取材や編集にご協力いただいた多くの皆様に心から御礼申し上げます。

昭和63年5月号〜平成4年4月号

私が広報を担当した期間は、時代が昭和から平成に移り代わった、大きな節目のころでありました。経済的には未曾有のバブル景気のなかで、とにかくやたらと活気があった



井沢洋（177号〜224号担当）

町民の考え、暮らしに一番の関心があったように…

いざわ よう／幾つもの企画コーナーを作り、多くの町民が紙面に登場した。

ことを今でも覚えています。

町も発足30周年という、人間でいうならば正に働き盛りの季節を迎え、大型のインフラ整備事業が目白押しでした。

昭和63年12月、菅平高原国際リゾートセンター完成。平成元年9月、古城緑地広場オープン。平成2年3月、役場新庁舎完成。平成3年12月御屋敷歴史館仮オープン。

この他にも、有線放送設備の更新や下水道事業の推進など、幾つかあります。当然、広報担当として、こうした町の動きを取材し、リアルタイ



右から2番目の平成元年6月号は、体育祭の「ねらってポン」競技の一瞬をとらえ、全国コンテストで入選した。

期を迎えていました。「さわやか健康づくり推進の町」宣言をして以来、グラウンド等の施設を整備し、スポーツの振興を図るなか、役場周辺一帯を「ふれあい福祉健康ゾーン」と位置づけ整備を進めてきました。そして平成5年、

プールと温泉の施設「ふれあいさなだ館」と、高齢化社会に対応し高齢者福祉の拠点となる、特別養護老人ホーム「アザレアンさなだ」が相次いで完成し、一帯の施設整備が完了となりました。また、県の史跡「真田氏館跡」を活



右から2番目の平成5年5月号は、ふれあいさなだ館のオープンを伝える。

貴重な機会を与えて

いただいたことに感謝して…

羽毛田克信（225号〜260号担当）



はけた かつのぶ／三笠宮殿下、妃殿下をお迎えての取材では、緊張した。

本当にありがとうございます。自分自身がとても勉強になり、貴重な機会を与えていただいたことに感謝しています。

平成7年5月号〜10年4月号

広報担当になり最初の編集後記には、『まちがいの無いよう、町民のみなさんに、広報をきちんと届けたい』と目標を掲げたものの、そんな意

ムで報道することを心がけてはきましたが、その当時の私は、町民の皆さんが何を考え、どんなふう to 暮らしているのか、そのことに一番関心があったように思います。

今、当時の広報をパラパラめくってみると、大勢の方々にご登場をいただいています。そして、生活や季節のなかで感じた事、いつもやって

にありて」、普段着の皆さんにお聞きした「この町が好き」、家族でご登場を願った「親子でピンポン」。また、町内の里山や史跡などを訪ね歩いた「ふるさとを歩く」シリーズなど、どの企画も思い出深いものばかりです。

取材にご協力をいただいた大勢の皆さんに、改めて感謝申し上げます。皆さんとの出会いや語らいが、今の私の仕事（生涯学習事業）の大きな糧となっています。本当にありがとうございます。

平成4年5月号〜7年4月号

特集

時代と広報を振り返る

元々文章を書くことが苦手な自分が、毎月発行する広報の編集ができるのか、とても不安であったことが思い出されます。今あらためてページをめくってみて、こうすればよかったなと思うところが、つい目にとまってしまう、懐かしくもあり反面、自分の力不足を感じてしまいます。

さて、当時の「真田町」は発足からおよそ35年。発展の基盤づくりも大詰めという時



たなか まさひこ／高速道路、新幹線の開通。長野オリンピックという時代を担当した。

田中昌彦（261号〜266号担当）

一冊一冊に思い出と

町の歴史が詰まって…

気込みとは裏腹に、毎月が締め切りに追われドタバタの連続でした。

当時の紙面を改めて見てみると、色々な思い出があります。平成9年10月、表紙には、さなだ保育園運動会で、園児が笑顔でゴールに駆け込む写真が載せました。この広報は、長野県の広報コンクールの写真の部で優秀賞に選ばれた唯一の作品でもありました。

私の担当した当時、長野冬季オリンピック開催を控えて上小地域が高速交通時代へ飛躍した時期でもありました。

左から2番目が、県広報コンクールで優秀賞に選ばれた平成9年10月号。



平成8年11月、町の玄関口ともなる高速道インターチェンジの名称に「菅平」の文字を入れたいとの地域の要望がかない「上田菅平IC」となり更埴まで開通。また、翌年10月には長野新幹線が開業しました。

町内では、花のまちづくりが各区で様々なアイディアと工夫を凝らして定着し、平成8年には町内の花づくりが「全国花のまちづくりコンクール」で優秀賞を受賞したことで、地域のこれまでの活動が全国で評価されました。

平成10年1月、いよいよ長野冬季オリンピックを間近に控え、菅平高原では世界14カ国から参加しての国際スキーオリエンテーリング大会が開催されました。さらに、全国をリレーしてきたオリンピックの聖火は、菅平高原のゲレンデなど町内4区間を、町民の皆さんの手によってリレーされ開催地の長野市まで引き継ぐことができました。

思い起こせば、広報誌一冊一冊に思い出と町の歴史が詰まっています。様々な経験をさせていただいた広報担当3年間、皆さんにはお世話になりました、ありがとうございます。

平成10年5月号、 15年4月号

私が広報を担当した平成10年から15年の5年間の出来事といえば、町発足40周年、上田地域広域連合の発足、サニパーク菅平のオープン、真田中学校の改築、田中県政の誕生、そして、市町村合併の議論の始まりなど、地方が改革に向けて動き出したところでした。また、介護保険のスタートやダイオキシン対策など、福祉と環境に重点が置かれ始めたときでもありました。

左から2番目の平成13年11月号は、全国広報コンクール1席に輝いた。



大勢の方の協力で 1冊1冊ができて…

堀内克己（297号〜356号担当）



ほりうち かつみ／上野バイパスを取り上げた特集には、多くの反響があった。

こうした動きを伝え、記録に残すような仕事に携われたのは幸運である反面、悪いものでも残ってしまうという怖さがありました。最初は何をしたいのかわからずに、ただ時間ばかりが過ぎていくだけでした。

一人でも多くの人に手にしてもらえようと、表紙をカラーにして、特集を始めたのは担当になってから2年目のことです。そして、今思えば大きな転機になったのが、平成11年11月号の特集「隣まの毎日通う道」の掲載でした。上野バイパスを取り上げたこの特集に、それまでにないたくさんの反響をいただいたのです。この号はその後、全国広報コンクールの最初の入選となり、忘れられない1冊になりました。

それから、「写真が載るのは恥ずかしい」と言いながら、貴重な話をしてくれた大勢の方の協力で1冊1冊ができていきました。あの時、あの人が広報に出てくれなかったら…、そんなことが何度あったことか。協力してくれた皆さんには、本当に感謝しています。

広報担当は当時、役場では

人気のない仕事でした。自分も担当になるなんて、とんでもない。そう思っていたものの、担当してみると喜びの多い仕事で、「広報の記事が茶の間の話題になった」、そんな話を聞いたときは何よりうれしかったものです。

平成15年5月号、 最新号

私の担当した平成15年以降の町を一言で表現するならば、「合併論議の時代」といえます。その前年の14年6月のアンケートから始まり、17年2月6日の住民投票まで、住民アンケートと投票は、4回行われました。また、住民の署名による住民投票条例の制定請求が2回議会会で否決され、16年12月には、町長のリコール投票も行われました。

最終的には、住民投票で町の合併は、確定しましたが、合併の賛否が拮抗する状況の中で、多くの人が、先行きの不透明感と、緊迫した空気を感じていた。そんな時代だったと思います。また、15年に開催された相田みつを展には、2万人の人が訪れ、広報でも



右から4冊が過去2年の県広報コンクールで、広報紙、写真でそれぞれ入選した。

特集したことを思い出します。広報の仕事は、やってみていとは、思っていました。そして、県の広報コンクールでは1位を、全国でも連続入選続けていた広報を引き継いでのスタート。無論自分でもそうした結果を残したいという気持ちはありましたが、それをプレッシャーと感ずることはありませんでした。結果的には、過去2年広報紙、写真とも県では入選、写真では最優秀賞をいただけたことは、一つの思い出です。

しかし、広報を担当して一

番の魅力は、特集を自分で企画して、多くの方の話が聞けることでした。単に行政からのお知らせを羅列するだけの広報では、味わえない醍醐味があったと思います。

このことは、ときに自分の仕事をより大変にするものでもありました。でも、その紙面の向こう側に読んでくれる人がいる。そのことを忘れず、また、それを支えに毎月を過ごしてきました。そして、良くも、悪くも、読者の方からの反応が、一番の励みでした。紙面に登場していただいた多くの方と、支えていただいた読者の方に深く感謝します。

編集室からひと言

広報は、町の記録であり、その時代の息吹が、感じられる歴史。

今月は、歴代広報担当が振り返るちよつと長めの編集後記という趣でしたが、いかがだったでしょうか？

ああ、そういえば、あのころには、こんなことがあった、あの道路や、施設は、そのころできたのか、など思い出したり、新たな発見もあったのではと思います。

現在町では、町発足当時の公民館報から、現在の広報までを1枚に収めたDVDを作成しています。その作成のために、過去の館報から、広報を1号ずつ見る作業を行いました。すると新しい発見ばかりで、思わず読み入ってしまった。

うこともしばしばでした。そして、財政的に厳しかった昭和30年代から、40年代へと時代が進み、道路や橋、学校、様々な施設が、現在まで、着々とできてきたこと、またその時代、時代の行事や、町民の姿が分かります。

改めて、広報は、町の記録であり、その時代の町の息吹が感じられる歴史になっていることに気がきます。

間もなくこの「広報さなだまち」も終わりを迎えるようにしています。今まで親しんでいただいた、町民の皆さん、ありがとうございます。

そして、平成18年は、真田町にとって、新しい出発の年でもあります。新生上田市として、新しい歴史を始めます。その一歩が良い年であることを祈っています。



わたなべ じゅんいち／特集の企画と、取材が広報作りの一番の魅力。

特集

時代と広報を 振り返る



12月7日から16日まで、平成17年第4回真田町議会定例会が開催されました。
この議会では、真田町地域

地域自治センターでは 従来と変わらないサービス

町長所信表明（要旨）

2月初旬には ガイドブックを配付

皆さんから多くのご意見をいただいております「地域協議会」のあり方については、住民の意見や要望を行政の場に応じて意見を述べ、さらには地域の発展に資する提言を役割とし、分権型自治の構築と、住民の参加と協働による住民自治の向上に寄与することを目的に設置します。

また、総合支所機能としての自治センターでは、従来の行政サービスを低下させることのないように配慮し、今ま

福祉基金条例や17年度一般会計補正予算など23件が審議され、いずれも原案どおり可決されました。

でとなら変わりなく手続きやサービスが受けられる体制を堅持することとしています。

これら新市の詳しい組織や窓口等については、わかりやすいガイドブックとして取りまとめ、2月初旬頃までに、各ご家庭に配付し、住民の皆さんが戸惑うことがないように万全を期してまいります。

地域農業振興の 拠点施設を支援

信州うえだ農業協同組合では、地域農業の振興に向けた拠点施設となる、新たな農業生産資材店舗「JA信州うえだグリーンファーム真田店」を建設する計画が進められて

額で落札されています。

可決された主な議案

- ◇真田町地域福祉基金条例
社会福祉協議会に出資していた基金を合併協議に基づき町で基金化する条例が可決されました。
- ◇平成17年度真田町一般会計補正予算
2億4156万円を増額し、総額49億2649万円とする補正予算が可決されました。
主な内容は次のとおりです。
- 地域福祉基金積立金
1億8510万円
- 農協資材センター・農業相談室建設事業補助金
2628万円



ネット公売の物件は、すべて見積価格を上回る金額で落札された。

います。

農業相談など地域農業を支援し、生産性を高めることにより、農業振興に寄与する施設であることから、町としても支援してまいります。

産院存続の 取り組みを支援

上田市産院の存廃問題が上田地域の大きな問題となっており、町民の皆さんにとっても大きな影響があり、関心の高い問題であることから、町としても、少子化対策、次世代育成支援に取り組むなか、この地域に安心して子供を生育てられる環境を確保し、

合併後は、真田地域自治センターとなる役場。従来と変わりなく手続きやサービスが受けられる。



真に豊かな生活を送ることのできるまちづくりを進めるため、上田市と連携を図り、町民の皆さんと共に産院の存続に向けた取り組みを支援してまいりたいと考えています。

地域との協働による 除雪にご理解を

現在、安全な交通環境を確保する除雪体制を整えていますが、長大な路線延長を抱える当町にとって、冬季の除雪業務は大きな課題であります。これからの除雪業務について

ネット公売は すべて落札

町政の根幹となる町税の徴収率向上が大きな課題とされており、

これまで不動産等の公売については、落札の見込みが低いこと、事務量に対し不効率

税の申告相談は

2月16日(木)～3月15日(水)

町では、例年どおり2月16日から税の申告相談を行います。この申告は平成18年度の住民税、国民健康保険税、介護保険の算定の基礎となるもので、申告しないと保育料の算定、国民健康保険税の軽減、年金、児童手当の支給などに支障が

出ますので、必ず申告してください。

なお、3月6日より新市が誕生しますが、合併後の申告についても旧市町村の会場で申告をお願いします。

●申告が必要な人

平成18年1月1日現在、真田町の住民で、次の人を除くすべての人。

●申告する必要がない人

①給与所得が1箇所だけの人で、給与所得以外の所得

が無く、勤務先から真田町役場へ給与支払報告書が提出されている人。

※給与所得者で農業所得を『農業目安割合』で申告される人で、すでにその申告書を役場へ提出されている方は、申告会場へ来ていただく必要はありません。

②扶養されていて、収入がまったくない人。

③税務署へ平成17年分所得税の確定申告を提出される人。

●税務署での申告が必要な人

- ①譲渡所得がある人（県や町が関与した譲渡については、町会場でも受付します。）
- ②株式譲渡所得の損益通算をされる人。
- ③青色申告をされる人。

●農業経費目安の申告

①農業所得を経費目安割合で

申告予定の方で、お手元に申告書が届かない方は役場税務係までご連絡下さい。

なお、この経費目安割合での農業所得の申告は17年分で廃止となり、18年分からの、申告は全員が収支計算書による申告となります。

●その他

平成17年分の申告より、国民年金保険料を社会保険料控除として申告する場合、社会保険庁からの控除証明書が必要となりますので、2月上旬に送付される控除証明書を保管し、申告会場に持参してください。

日程や会場は広報2月号でお知らせします。申告が必要な方は準備をお願いします。

問い合わせ 税務係
有線2041 ☎72-0154

■丸子町

笑う門には福来たる！
合併記念イベント
「立川流落語会in丸子」

昨年、真打に昇進した丸子出身の立川談慶が、師匠の談志らとともにやって来ます。立川一門の落語で新年を明るくお迎えください。

期日 2月7日（火）

場所 丸子町文化会館（セレスホール）

開演時間 午後6時30分（6時開場）

出演者 立川談慶、立川談志、立川志の輔、他

チケット S席4,000円／A席3,500円
（全席指定）

問 丸子町文化会館 ☎42-0001

■上田市

文化芸術協会 新春文化講演会
「身体で感じる美しい所作の秘密」

日時 1月14日（土）15:00～16:30

場所 上田市文化会館ホール

内容 西川扇藏さん（西川流十世宗家・日本舞踊家・人間国宝）による講演と素踊りの上演

入場 無料

問 上田市文化芸術協会事務局

（上田市教育委員会文化振興課内）

☎23-5102

■武石村

大自然に囲まれたくつろぎの宿

元禄の昔から地元の人々に胃腸病に効き、身体の良く温まる湯、脳の働きを良くする（頭の良くなる）名湯として親しまれてきた岳の湯温泉雲漢荘。宿泊や日帰り入浴もできます。

問 岳の湯温泉雲漢荘☎85-2263

武石村開発公社事務局☎85-2829

■真田町

自家用みそを作りませんか

真田町の農業活性化施設「ゆきむら夢工房」では、自宅で取れた大豆とお米の持ち込みで、自家用みその加工をお受けしています。大豆1斗に米1斗で加工賃は8,200円（予定、麹菌代含む）。加工には約4日かかります。

ご希望の方は事前に申し込みください。

期間 2月上旬からおおむね6月上旬

場所 真田町 ゆきむら夢工房

申込・問 ゆきむら夢工房 ☎72-0150

新市誕生まで

あと**64日**（1/1現在）



勇壮な伝統の響き

●木曾義仲挙兵太鼓

まるこ

破竹の勢いから「旭將軍」と称された平安末期の武將・木曾義仲。治承四年（一一八〇）、義仲は平家討伐の兵をここの丸子の地で挙げたと言われており、合戦を前に太鼓を高らかに打ち鳴らし、將兵の士気を鼓舞したと伝えられています。木曾義仲挙兵太鼓はその故事にちなみ、昭和43年に創作されました。獅子頭や時代衣装を身につけ、激しく踊りながら打ち鳴らすこの太鼓は、今も鹿教湯の人々を中心に受け継がれており、聴く者を往事の（おとし）世界へと誘います。

さなだ

真田町の戸沢区で毎年2月8日に行われるのが、ねじと馬引き行事。全国的にも珍しく、国の選択無形民俗文化財です。

早朝に幼児が、わらびとに入れたねじを背負わせたわら馬を引き、道祖神にお参りして無病息災を祈ります。ねじは、こねて蒸かした米粉に赤や緑の食紅で彩色し、餡を入れ、木の葉や動物などをかたどった食べ物。道祖神に供えたり、お参りの後に、母親どうしで交換し合います。幼子の健やかな成長を願い、うけつがれる伝統の行事です。



幼子の無病息災を祈る

●戸沢のねじと馬引き



災難をよけ、福を招く

●八日堂と蘇民将来符

うゑだ

信濃国分寺が1月7日・8日の八日堂縁日で、参拝者に授ける護符「蘇民将来符」。室町時代から連綿と受け継がれてきた蘇民将来信仰に基づいて頒布されているものです。この護符は、国分寺の門前に家を構える「蘇民講」と呼ばれる人々により、ドロヤナギの木を手彫りで六角錐に仕上げた後、国分寺住職などが墨と朱で「大福」「長者」「蘇民」などの文字や紋様を書き入れます。民芸品として格調高く、国の選択無形民俗文化財に認定されています。

たけし

七年目に一度に行われる子檀嶺神社の御柱大祭。今まで発見された記録の中で、天明2年（1782年）に行われたものが最も古いそうです。奉納されるおねり行列は、百万石の大名行列を模したもののといわれ、行列の中に「おかめ」と「ひよっこ」（ふりふくべ）の余興が入っているのが特徴です。

この祭事は、200年以上にもわたり、宮元の小沢根・余里の地区の人々によって、受け継がれてきましたが、昭和43年からは全村民によって行われています。



七年目に一度の大祭事

●子檀嶺神社御柱大祭



四つ葉の
スケッチ

この春、私たちの住むまちとは合併して新しい市に生まれ変わります。お互いのまちにはどんな個性があるのでしょうか？このコーナーでは、4市町村の魅力を毎月テーマに沿って紹介します。

●今月のテーマ うけつぐ



館報・広報

ひもといてみれば



⑥昭和62年5月号 太郎山山林火災

来年3月5日で、47年以上の町としての歴史を閉じ、新生上田市として新たな出発をする真田町。

そこで、町の誕生当時から16年間発行されていた「公民館報さなだ」と、昭和46年か

ら発行された「広報さなだまち」の中から、印象深い出来事があった号をひもといて、町の歴史を振り返ってみます。

長い町の歴史の中では、幾つかの災害が町を襲っていま

山林火災で40ha焼失 東太郎山に赤いキバが！

太郎山山林火災の様子を伝える昭和62年5月号の広報さなだまち。



す。その代表的なものは台風

や、ひょう害です。その中でめずらしく、また記憶に残るのが、太郎山の火災。昭和62年5月号をひもといてみます。

『4月21日の夜8時ごろ、上田市金剛寺地区の山林で火災が発生、連日のカラカラ天気で乾燥しているところに、風速15〜20メートルの強風が吹いていたため火はまたたく間に燃え広がり、東太郎山の南斜面は火の海となりました。

火は畑山の西の山に燃え広がし、翌22日午前1時40分ごろ、曲尾区西方の東太郎山斜面（若宮地籍）に飛び火して、ついに真田町にまで延焼してきました。

これに対して真田町消防団では、全分団が徹夜で警戒にあたり、22日早朝から森林組合、営林署職員等と協力しな

昭和62年4月22日の午前2時ごろ曲尾区から撮影した東太郎山。



がら消火作業に入りました。水利のない山中での消火作業は、強い火勢と煙にはばまれ、困難をきわめました。

午後2時ごろ、曲尾区西方の火災はようやく下火になり鎮火、上田市畑山との境付近の火災も、東京消防庁や名古屋消防局、自衛隊のヘリコプターの応援もあって午後5時ごろ鎮火し、真田町発足以来の大火との戦いに終止符が

打たれました。（上田市側は24日までくすぶり続け、約180ヘクタールを焼失）

この火災で町内では、町有林、区有林など約40ヘクタール（カラマツ、ひのき、杉等）を焼失し、被害金額は約4000万円に及びました。なおこの火災への出勤総人員は685名でした。『火災の多いこれからの季節、気をつけたいものです。』



あの人を訪ねて ⑦⑥

経験した中にあった税金を書いて
みたいと思いました。

和田満智子さん（真田中3年）

税の作文で、関東信越国税局長賞受賞

このほど中学生の税についての作文と標語で真田中の生徒14人が入選しました。これは、中学生に税についての理解を深めてもらおうと行われているもの。

作文で、関東信越国税局長賞を受賞した和田満智子さん（3年）に感想を聞きました。

「経験した中にあった税金を書いてみたいと思いました」と話す和田さんの作文は、教科書やホームページ体験、吹奏楽部の楽器など、身近に使われる税を取り上げ、とても分かりやすいもの。「自分たちにかけてもら

った税金は、大人になったら、納税のかたちで返えそうと思う」と。身近なことを取り上げて書いた作文で「みんな税金が使われていることを再確認できたことは、よかったと思います」と話してくれました。

和田さんの作文は、2月号に掲載します。この他作文と標語で次の生徒が入選しました。作文／宮下志保、小暮絵里子、佐藤大輝、坂口祐紀・標語／石巻恵里菜、大井花織、長井理乃、松井昌幸、塚田芽生子、増尾知弥、徳富ほなみ、山口真弥、坂口実里（敬称略）

わだ まちこ●自分たちにかけてもらう税金は、学校生活や活動でしか返せないけど、大人になったら、納税のかたちで返そうと思う。

こんにちは 読者です

50

このコーナーでは、広報に寄せられた意見について考えます。皆さんのお便りをお待ちしています。



声

良いものを
次の世代に

時代々の流れで、故郷が何らかの形で失われて行く様な気持ちでいっぱいですが、そんな中、来年3月の前にたくさんさんの真田らしさを取り上げられた編集は、良かったです。すばらしいと思いました。若林さんが、孫の武尊さん

今日は、11月号の特集「さなだのこころ」にモニターの方から寄せられた意見に答えます。

答

真田の心が
伝われば……

合併の前に、真田らしさを考え、伝えたいと思いながら、11月号を作っていました。

伝統文化を伝えるのも、豊かな自然を守るのも、真田を発信するのも、皆、人だと思っています。私たちのふるさとに、愛着と誇りをもって、真田らしい良いものを残していきたい……そんな真田の心が、多くの人に伝われば、いいなと思っています。



文化講演会シリーズ

大勢のご来場ありがとうございました



5人の著名講師が

11月5日から5回にわたって開催した文化講演会。ロッキード事件担当検事として活躍された堀田力さん。「そのとき歴史は動いた」でおなじみのNHKアナウンサーの松平定知さん。「バカの壁」の著者で解剖学者の養老孟司さん。「どうぶつ奇想天外！」で子どもたちに大人気の千石正一さん。するどい切り口でファンの多いジャーナリストの櫻井よしこさん。以上5人の先生の講演に町内外からのべ約4500人の方が来場しました。

興味深い講演

なかでも特に多くの方にご聴講いただいた養老孟司さんの講演会。先



大勢の方の協力で開催できました。



12月の最終会は、ジャーナリストの櫻井よしこさん。

帰りの際には車を見送る来場者の列ができ、先生の魅力に心酔された方も多かったようです。

多くのご協力ありがとうございました

「星野富弘花の詩画展」、「心に響くことばたち 相田みつを展」に続く文化事業として、町内の皆さんに著名な先生方の講演を直接聞いていただきたいと企画したこの講演会。おかげさまで大勢の皆さんから好評をいただき、閉会しました。開催にあたり、ボランティアとして協力していたいただいた運営委員会の皆さん、寒いなか駐車場係に従事していただいた皆さん、受付を手伝ってくれた真田中学校の生徒さん、本当にありがとうございました。



会場は満席となりました。

お越しく下さい「男性にも聞いてほしい育児講座」

日時 1月22日(日)

午後1時30分～3時

内容 子どものことを女性に任せきりになっていると感じている男性に特に聞いてほしいお話です。耳の痛い話ではなく、子どもとの関わり方を前向きに考えられるようなお話です。ご夫婦で、あるいは女性のみでのご聴講も大歓迎です。

講師 上原奈尾子さん(下諏訪町子育て支援センター長・親業訓練協会インストラクター)

受講料 保険料として1人50円

その他 乳幼児を同席させての聴講はご遠慮ください。子てまりの会による託児(無料)をご利用ください。申し込み 1月20日(金)までに生涯学習係 ☎72-2655 有線2097へ

参加者募集

「男性のための料理教室」

ごはんの炊き方からはじめて、家庭で「男の料理」を自慢できるよう腕を磨いてみませんか。

開講日 1月29日(日)に開講し、以後隔週日曜日、計5回を予定しています。

時間 各回とも午前10時～

午後1時30分

内容 ①ごはんをおいしく炊くコツ、

②すしを握ってみよう、③ふるさとの味「うちいれ」、④簡単フランス料理、⑤手作り和菓子(予定)

講師 食生活改善グループ ほか

受講料 保険料、材料費ほか実費

定員 15名※今回は男性に限らせていただきます。

申し込み 1月20日(金)までに生涯学習係 ☎72-2655 有線2097へ

(定員になり次第締め切ります。なお、会場などの詳細は受講者に改めてご連絡します。)

1月8日は成人式
後輩がコカリナ演奏と
合唱を新成人に贈ります

今年の真田町の新成人は、就職・就学などで町外にお住まいの方を含め、172人(男性88人、女性84人)です。今年は実行委員の皆さんの発案で、町内の小中学生が心をこめて贈るメロディで成人式に花を添えてくれます。

期日 1月8日(日)

時間 受付 午前10時から

開式 午前10時30分

会場 文化会館大ホール

その他 菅平小学校児童がコカリナ演奏、真田中学校1年生が合唱で、成人式に参加します。式典には一般の方も入場できますので、大勢のみなさんで新成人をお祝いしましょう。

問い合わせ 生涯学習係

☎72-2655 有線2097

1月の図書館だより

1月の休館日

新年は4日(水)から開館します。

なお、10日までシステム更新のため貸出・利用者登録はできませんのでご了承ください。学習室・閲覧のみのご利用となります。

年始休館 1月1日(日)～3日(火)

月曜休館 9日・16日・23日・30日

祝日・振替休館 8日(日)・10日(火)

月末整理休館 2月1日(水)

1月のおはなし広場

21日(土) 午前10時から

児童図書室 たまて箱の皆さんによる絵本の読みかせや紙芝居。お子さんといっしょにお越しく下さい。

おすすめの一冊

「何があつても大丈夫」 櫻井よしこ
櫻井さんの出生からジャーナリストになるまでを初めて綴った劇的半生。櫻井さんお母様の口癖「何があつても大丈夫」から、前向きに困難に立ち向かう姿勢が感じられます。勇気づけられる一冊です。

新着図書

「あなたのそばで」 野中 終

「さらさら」 シンシア・カドハタ

「幸福な食卓」 瀬尾まいこ

「C. Sルイス物語」

エレース・マリー・ストーン

「ツキコの月」 伊集院 静

「クリスマスをめぐる7つのふしぎ」 斉藤 洋

ふわっとテニス大会

開催のお知らせ

さなだスポーツクラブふわっとテニスサークルでは、2月26日(日)に「ふわっとテニス大会」を開催いたします。

申込み方法等詳細については2月号広報に掲載しますので、お見逃しなく。

大会結果

第9回ソフトバレーボールリーグ戦

町民体育館で18チームの参加により11月16日(水)から12月8日(木)までリーグ(2リーグ)戦が繰り広げられ、12月14日(水)決勝トーナメントが行われました。

主な成績は、次のとおりです。

優勝 ガッツ中原

準優勝 羽根クラブ

第3位 中原C・真田C

上田地区少年健全育成剣道大会

11月12日(土)に上田市民体育館において、上田地区少年健全育成剣道大会が開催されました。

町の剣道教室から、小学生37名と中学生21名が参加しました。

主な成績は、次のとおりです。

小学四年女子の部

優勝 坂口 みゆき

中学一年男子の部

準優勝 田中 健士郎

中学二年男子の部

第3位 染野 友希



生活情報

菅平郵便局での 証明発行に変わります

平成18年2月6日より、菅平高原国際リゾートセンター内菅平分室での証明発行が廃止され、菅平郵便局で証明発行が行われるようになります。ご注意ください。

発行できる証明書

○戸籍謄本、抄本…（本人及び同じ戸籍内の方のもの）

○住民票世帯分、個人分…（本人及び同じ世帯の方のもの）

○印鑑証明…（印鑑登録証カードを提示して、本人のみ）

○所得証明…（本人及び同じ世帯の方のもの）

○納税証明書…（本人及び同じ世帯の方のもの）

※窓口に来られた方の本人確認を行いますので、必ず免許証、パスポート等をお持ちください。

※代理人申請、第三者からの申請は受付ができません。発行する証明によっては本人以外の申請では、ご家族でも取れない場合がありますので、ご注意ください。

問い合わせ 町民係

有線2002 ☎72-0154

除雪作業への ご協力をお願いします

これからの季節、大型除雪車での除雪が行われます。雪道を安全に利用いただくため、次の3つのポイントにご協力ください。

○路上駐車はやめて下さい。～たった1台の放置車両で除雪ができなくなります。路上駐車はしない、させないようにしましょう。

○除雪後の車道への雪出しはやめ

てください。～除雪の効果が少なくなり、事故の原因にもなります。○深夜作業にご理解を～除雪車の騒音などでご迷惑をおかけしますが、ご理解をお願いします。

問い合わせ 上田建設事務所管理計画課維持ユニット☎23-1260
役場管理国土調査係
有線2089 ☎72-4331

電源立地地域対策 交付金事業で出来ました

水力発電施設のある市町村に交付される「電源立地地域対策交付金」により、大日向宮前地区で水道管の布設替えを行いました。

これにより、136mの石綿セメント管がダクタイル鋳鉄管に更新され、安定して清浄な水が供給されます。

問い合わせ 上水道係

有線2071 ☎72-4253

上田地域広域連合主催の 独身男女交流会を開催

日時 1月28日（土）午後3時～午後8時30分

会場 上田東急イン・国際クリスタルホール3F「信濃」

内容 FM長野の伊織アナウンサーの進行でゲームと立食の交流パーティー。

募集人員 男女とも各50名（応募者多数の場合、抽選により当選者のみ参加）

参加対象 25歳以上の独身男女

参加費 男性一人 6000円

女性一人 3000円

申込み方法 FM長野ホームページ（<http://www.fmnagano.co.jp>）

の応募フォーム。またはハガキ・FAX（氏名・住所・生年月日・職業・血液型・電話番号を明記）でFM長野「伊織の合コン大作戦」の係まで。※申込みは参加希望者ご本人の場合のみとします。

応募締切 1月13日（金）必着

申込み・問い合わせ

FM長野 〒390-8520松本市本庄

1-13-5 ☎0263-33-4400

FAX0263-33-9999

家さん、愛玩鳥飼養者の方は 鳥インフルエンザに注意を

高病原性鳥インフルエンザのウイルスは、渡り鳥の飛行ルートに沿って拡がっています。次のことに留意して、飼養している鳥に少しでも異変があれば、羽数の多少にかかわらず、直ちに下記の家畜保健衛生所に通報してください。

留意事項 ①野鳥（すずめ、カラス等）の飼養舎への侵入を防止する。②ねずみ、いたち類の駆除及びはえ、ゴキブリ等の害虫を駆除する。③飲み水は、飲用に適したものか、消毒したものを使い、少なくとも、野鳥や野生動物の接触が考えられる生水は与えない。

その外詳細は問い合わせください

通報先・問い合わせ 佐久家畜保健衛生所上田支所 ☎23-1630

商工会の 新春時局講演会

新春恒例の講演会を、皆さんおなじみの池上彰氏をお招きして開催します。入場無料です。皆さんお越しください。

日時 1月15日（日）午後1時30分～午後3時30分

場所 文化会館大ホール

講師 ジャーナリスト 池上彰氏

テーマ ニュースから見たわかりやすい日本経済と今後の行方

問い合わせ 真田町商工会

有線2061 ☎72-4050

森林インストラクターの 養成講座

（社）全国森林レクリエーショ

ン協会認定の森林インストラクター養成講座を開講します。資格取得を目指す方、森林の知識、野外経験を積みたい方など受講ください。

日時 2月19日（日）午前9時～午後3時

場所 県林業総合センター（塩尻市）

内容 記念講演「21世紀の森とわたしたち」講師 加藤正人氏（信州大学農学部教授）／特別講演「森林の現状と森林インストラクターの役割」講師 小山泰弘氏（県林務部）／試験制度／講座概要／合格体験記

締め切り 2月17日（金）

定員 100名（先着順）

参加費 一般2500円 学生1500円

※2回目以降は3月～11月ほぼ毎月2日ずつ、実技を中心に菅平や県内で、開催予定。

問い合わせ NPO法人やまぼうし自然学校 ☎74-2735

交換期限は2月28日まで 燃やせないごみ指定荷札

平成16年7月に廃止しました黄色や緑色の町指定荷札の交換はお済でしょうか。

名前が記入してあったり、青色や赤色の古い荷札でも交換できます。役場生活環境係の窓口と菅平高原国際リゾートセンターで「もやせないごみ専用袋」と交換しています。

新上田市の発足がひかえていますので、交換期限を2月28日までとさせていただきます。まだお手元に町指定荷札がありましたら、早めに交換にお越しください。

問い合わせ 生活環境係

有線2046 ☎72-2204

みんなで考えるこれからの 地域福祉フォーラム開催

10月に実施した福祉についての

住民意識アンケート調査の結果報告とともに、これからの真田のまちづくりのあり方について考えるフォーラムを開催します。

日時 1月28日（土）午後1時～3時30分

場所 役場3階講堂

内容 基調講演・アンケート調査の報告・シンポジウム「合併後の真田地域で望まれる地域福祉像について」

その他 定員180人 参加無料

問い合わせ 地域福祉フォーラム実行委員会事務局（地域生活支援センターえん）

有線5780 ☎72-8039

町事業の落札業者 （10・11月分）

西部支線2号水路新設工事（岡保）
525万円 三井建設㈱

乳幼児健康診査と 予防接種

（1月6日～2月5日）

ベビー相談 1月13日（金）午後1時～1時40分受付

場所／保健センター

対象／17年10・11月生まれ

乳児健診 1月24日（火）午後1時15分～1時40分受付

場所／保健センター

対象／17年3・6・9月生まれ

3歳児健診 1月27日（金）午後1時15分～1時40分受付

場所／保健センター

対象／14年9～11月生まれ

BCG 1月13日（金）午後1時～1時40分受付

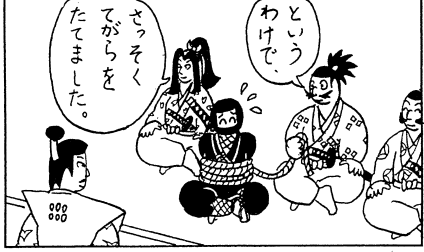
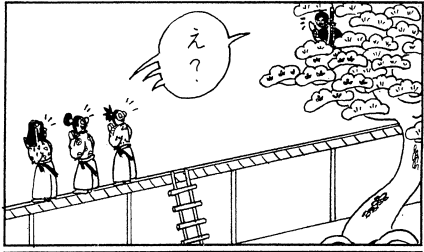
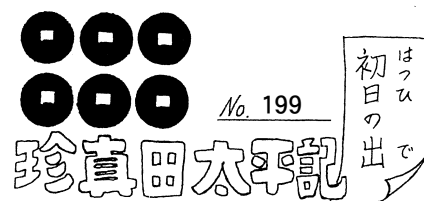
場所／保健センター

対象／ベビー相談と同じ

三種混合 1・2月

場所／本原医院・小林医院

対象／初回は17年3～8月生まれ、追加は15年9月～16年2月生まれ、7歳6ヶ月未満の未接種児



風しん 2月
場所／本原医院・小林医院
対象／16年7月～12月生まれ、
7歳6ヶ月未満の未接種児
問い合わせ 保健センター
有線2053 ☎72-9007

行政相談、心配ごと相談
日時 1月25日（水）午前9時～正午
場所 福祉センター
問い合わせ 行政係
有線2011 ☎72-2201
または社会福祉協議会
有線2007 ☎72-2998

MNさなだ ゆうほう番組表 (1/6~2/5)

放送時間は、夕方6時30分～（再放送は翌朝6時～）となります。（お話の世界へ、学校、保育園だよりは、夕方4時30分～）

日	曜	番組名	出演者
7	土	おはなしの世界へ「十二支のゆらい」	／おとぎの会 堀内 孝子さん
10	火	駐在所だより	／真田駐在所
12	木	身近な税の話「所得税の還付申告の作成は国税庁ホームページで」	／上田税務署
14	土	おはなしの世界へ「スヌークさん一家」	／おとぎの会 佐納 あずささん
15	日	みんなの食生活「東洋医学的にみた食品の効用」	／保健センター山崎栄養士
17	火	みんなの健康 「有酸素運動について」	／教育委員会 中川 ひろ子指導員
18	水	図書館の窓	／図書室
19	木	農業アドバイス	／上小農業改良普及センター
21	土	おはなしの世界へ「ねずみのすもう」	／おとぎの会 荒木 克子さん
24	火	生活のしおり	／J A長支所増田生活指導員
26	木	さなだ通信	／町内から
28	土	おはなしの世界へ「馬車にのった山ネコ」	／おとぎの会 鎌田 洋子さん
29	日	幼稚園だより「手作りカルタ会」	／いずみ幼稚園
31	火	庭木の管理	／真田町造園協同組合 堀内久夫さん
2	木	生活環境係から	／生活環境係
4	土	おはなしの世界へ「カチカチ山」	／おとぎの会 広瀬 しず江さん
5	日	学校だより「学校みんなで取り組むスキー」	／菅平中学校

水道工事当番店

1月の水道工事当番店です。

工事店名	月	日
金井設備商会(株) ☎72-2118 有線 3356	＊	5 18 31
(有) 駒屋商店 ☎72-3696 有線 2373	＊	6 19 ＊
(有) 真田建設 ☎72-2019 有線 5430	＊	7 20 ＊
石巻設備 ☎73-2021 有線 4454	＊	8 21 ＊
(有) 長崎商店 ☎73-2511 有線 2368	＊	9 ＊ ＊
(株) アサヒ興業 ☎72-3414 有線 5333	＊	＊ 22 ＊
(有) ドーム管工 ☎72-0771 有線 4383	＊	10 23 ＊
山崎設備工業(有) ☎73-2322 有線 4210	＊	11 24 ＊
(有) 信濃空調 ☎72-5706 有線 6249	＊	12 25 ＊
若林設備工業所 ☎72-3166 有線 5332	＊	13 26 ＊
イチノセ管工 ☎72-3000 有線 5216	1	14 27 ＊
浅間設備(株) ☎72-3938	2	15 28 ＊
菅平設備 ☎74-3933	3	16 29 ＊
岩淵住設 ☎74-4122	4	17 30 ＊

めざせ健康 日本一

女性のがん検診が変わります

厚生労働省の「がん検診指針」改正により、平成18年度、女性のがん検診対象者が次の通り変更実施されます。

①乳房検診（集団）～30歳以上の女性

②子宮がん検診（個別・集団）

～20歳以上の女性で偶数年齢になる方

③マンモグラフィ検診（集団）

～40歳以上の女性で偶数年齢になる方

＊若い世代、特に40代の乳がんが急増しています。早期発見に有効なマンモグラフィ検診を受け、毎月の自己触診を心がけましょう。

●子宮がん・マンモグラフィ検診が2年に1回の受診に変わります。来年度、奇数年齢で対象外となり、今年受けずに来年度に受診を予定していた方は、2年の間隔があいてしまうため18年度の受診が可能です。ただし、子宮がん検診の個別（医療機関）は偶数年齢の方に限られるため、奇数年齢で希望される方は集団検診を受診してください。

※気になる症状がありましたら検診を待たずに、早めに専門の医療機関を受診しましょう！

戸籍の窓

ご両親からのメッセージ
やさしい子になってね！



宮崎紫花ちゃんとお母さん

11月届け出分

☆お誕生おめでとう

中村 莉菜 (太 郎 萩)
宮崎 紫花 (凡 香 菅 平)
坂口 怜美 (修 之 四 日 市)
関 優理奈 (一 彦 曲 尾)

♡いつまでもお幸せに

(廣瀬 幸 一 高 山 村
佐藤 寛 美 田 中
浦本 涼 介 十 林 寺
中辻 加奈子 大 阪 府
滝澤 英 明 上 田 市
坂口 寿々美 田 中
塩沢 博 信 大 日 向
笠原 順 子 上 田 市
工藤 健 彦 上 田 市
永井 照 江 角 間)

□ごめいふくをお祈りします

小林 久雄 83 入軽井沢
中澤 法彦 64 菅 平
山浦万壽子 84 下 塚
川上 忠明 40 菅 平
櫻井 祐夫 74 荒 井
小市はる江 83 荒 井
永井 増男 90 田 中
西牧三四二 83 穴 沢
横沢 清枝 87 大 畑
柄澤 こと 92 田 中
常田たい子 84 竹 室
田中 國雄 79 入軽井沢

月曜日は午後7時まで！

役場延長窓口(住民票・印鑑
証明・所得証明・納税証明)
をご利用ください。

納税と使用料

1月31日(火)

- ・個人町県民税(普通徴収)
- ・国民健康保険税
- ・介護保険料(普通徴収)
- ・有線放送使用料
- ・保育料
- ・町営住宅使用料
- ・ふれあいの館利用料
- ・在宅支援サービス利用料

クッキング

No.110

簡単おやつ

(20個分の材料)

コーンフレーク 1箱(180g)
マシュマロ 1袋(140g)
レーズン 80g
割りくるみ 100g
アルミ皿 20個
粉砂糖 大さじ2
杏漬 5個



小山てつ子さん(出早)

子どもや孫と楽しみながら、
作ってみてください。

(つくり方)

- ①鍋にマシュマロを入れ弱火で溶かす。
- ②①にコーンフレークとレーズン、くるみを加え、熱いうちに鍋で混ぜる。
- ③②をアルミ皿に盛り付けておいておく。
- ④③が固まって冷えたら、粉砂糖を茶こしでふりかけ、上に杏を切って飾る。



カメラニュースは、町の中の様々
な出来事や話題をお届けしてい
ます。



● 合併100日前イベント みんなでつなごう4市町村トーチリレーを開催

11月26日、合併100日前イベン
ト、「みんなでつなごう4市町村
トーチリレー」が行われました。

この日武石村をスタートしたト
ーチは、丸子町、上田市区間をリ
レーされ、午後1時過ぎに傍陽小
学校に到着。傍陽小学校から、ゴ
ールのお屋敷公園まで、約5km9区
間を町内の小中学生など69人の走
者が、リレーしました。

そして、お屋敷に着いたトーチ
から、箱山町長が皇大神社前のか
がり火に点火。「夢と希望の持て
る新市を創りましょう」とあいさ
つし、4市町村をつないだリレー
が、終了しました。



● おもちゃ図書館くるくるさなだが クリスマス会を開催

12月3日、本原の児童館で、お
もちゃ図書館くるくるさなだのク
リスマス会が開かれました。

おもちゃ図書館くるくるさなだ
は、毎月第2、4土曜日に本原の
児童館で、障害のある人や、小さ
な子どもたちにおもちゃの貸し出
しをするボランティアグループ。

障害のある人や、小さな子ども
の交流の機会を作ろうと、毎年、
クリスマス会を開催しています。
この日は、体を動かすゲームや、
染谷丘高校合唱班の合唱、真田中
学生のエプロンシアター、パネル
シアター、紙芝居、腹話術など楽
しい出し物が盛りだくさんで、集

まった子どもたちは大喜びでした。
同会代表の小林彰さんは、「未就
学の子どもたちも、もっと来て欲
しいですね」と話していました。



● 長小学校と、菅平小中学校の 給食室が新しくドライシステムに

このほど、夏から改修を進めて
きた長小学校と、菅平小中学校の
給食室が完成。11月17日には、長
小学校で、翌18日には、菅平小中
学校で、それぞれ新しい給食室が
一般公開されました。

どちらの給食も床に水を流さな
い、より衛生的なドライシステム
を採用。長小学校は、既存部分に
39㎡を増築した161㎡。菅平小中
学校は、既存部分に19㎡を増築し
た144㎡に、どちらも調理室、洗
浄室、下処理室、検収室、休憩室
などを配置して、より衛生的で、
機能的な給食室になりました。

見学した人たちは、「明るくて使
いよさそう」「子どもたちが、何よ
り楽しみにしていると思います」
など感想を話していました。



● 霜にあたって、柔らかくおいしい さなだの郷野沢菜まつり開催

11月中旬から、下旬にかけて町
内の野菜直売所と、活性化組合で
さなだの郷野沢菜まつりが、開催
されました。このうち、11月26、
27日には、竹室と三島平の活性化
組合で収穫体験も行われました。
「今年をよくできています。2、
3回霜にあたって、柔らかくなっ
ている」と高寺規雄組合長が話す

竹室活性化組合の畑は2枚で約10
㍓。町外からも多くの人が訪れ、
振る舞われた豚汁で、体を温めな
がら、野沢菜を収穫していました。

26日に収穫に訪れた桜井延由
さん（小諸市）は、「6年前に広
告で見て来てから毎年来ていま
す。今日は4束ほど持って帰って
漬けます」と話していました。



● 花と緑の景観賞が決定 個人、団体、企業から11点を表彰

12月1日、このほど決定した平
成17年度花と緑の景観賞の表彰式
が行われました。

最優秀賞を受賞した大畑の山崎
寿雄区長は、「区民一丸となって苦
労してきたことが、花咲いたかな
と思います。夏の水の少ない時期
に環境整備委員長さんたちには、
水くれをしていただき、感謝して
います」と受賞の喜びを話してい

ました。
受賞者は次のとおりです。
最優秀賞＜団体＞大畑区
優秀賞＜団体＞戸沢区・曲尾区・
萩区・荒井区＜個人＞佐藤辰夫
（下郷沢）＜企業＞ロッジいざよ
い（菅平）
優良賞＜団体＞入軽井沢区・穴沢
区・出早区＜個人＞坂口昭彦（十
林寺）（敬称略）





音楽への熱い思いと 心に響くバイオリンの 音色にふれた 菅平講演会。

国際的バイオリニスト中沢きみ子さんの演奏に、会場全体が、吸い込まれるように聞き入った。

11月22日、菅平小中学校で、国際的バイオリニストの中沢きみ子さんの講演と、バイオリンの演奏を聞く菅平講演会が行われました。

菅平を知り、誇りを持ってもらおうと3年前から、始まったこの講演会。年に4回ほど菅平内外から講師を招き、講演してもらいます。今年4回目の今回は、上田市出身で

毎年夏に菅平を訪れる中沢きみ子さんの講演。

中沢さんは、「菅平には山があり、空気が澄み、四季がはっきりしている。音楽は、都会のビルからではなく、こういう環境から生まれる。人間の手で演奏する音楽は、心に響き、人間は素晴らしいと思える」など菅平や音楽の素晴らしさを話されました。

その後、バイオリンを演奏。

抑揚ある美しいバイオリンの旋律に、児童生徒から訪れたPTAの方まで、会場全体が、吸い込まれるように聞き入りました。最後に5年生児童がお礼に手作りのマンドリンとコカリナの演奏を披露すると、中沢さんは、「ブラボー！素晴らしい」と感動した様子でほめていました。

Town Topics Jan 2006

季節の中で

12月に区の公民館行事で、しめ縄づくりに参加しました。2、3年前に一度作ったことがあったので、すぐできると思っていましたが、すっかり忘れていて、なかなかうまくできません。わらを、よりながら、左縄になう手の動きが、最初はどうしても分かりませんでした。

それでも、講師の長寿会の方に教えてもらいながら、やっと2本のごぼう締めができました。何年か後に、自分も次の世代に教えられるように、これからは、毎年自分で作るうかなと思いました。(なべ)

インターネット情報

<http://www.sanada.or.jp/>

<http://www.town.sanada.nagano.jp/>

わたしたちの町の人口

総数 11,662人 (-22)

男 5,755人 (-15)

女 5,907人 (-7)

世帯数 3,805戸 (-4)

平成17年12月1日現在 ()内は前月比